

CAD による 繊維デザインの開発

- 結城紬・石下紬デザイン試作 -

繊維工業指導所

図案部 渡辺 豊 堀井 暉栄

1. 緒言

きもの需要が年々フォーマル化、高額化への流れを強め、需要内容が量から質へと転換しつつある昨今、カジュアルきものは大きな岐路にさしかかっている。

これら、きもの需要回復に向け、本年も前年同様、東京、京都、大阪地区の消費地問屋、百貨店を対象にデザインの動向調査を実施し、その結果に基づき消費動向にマッチした目新しいデザインをCADシステムを活用し試作・研究を行った。

調査結果については、報告会及びデザイン展を通して業界に普及指導し、製品化の一助とした。

2. 内容

2.1 市場におけるデザイン動向

結城紬を着る年代は、50～60才代が主力であるが、紬愛好者は、寂、渋さといった感性で着るため若い人（30才代）から年配（60才代）まで長く着られるデザイン、即ち、年代のないデザイン開発が望まれている。

模様は、現代の主流をなす亀甲緋に代る新感覚のデザイン（産地の特性を生かしたもの）。空間をうまく利用した飛感覚のデザイン。（3）古典柄が主流であるが、従来の古典柄でなく現代性を盛り込んだ新古典柄等が望まれている。

色彩については、ニューきもの調のダークな色使いに代る、伝統的な新古典長の色使い（中間色）が望まれている。色調は、単彩調、濃淡調（同系色）、ボカシ調の配色、色数を使って単彩に見える配色、一部にキキ色（掬いや緋で表現）を取り入れ地味な中に派手さを表現したもの等が望まれている。

2.2 デザイン試作

デザイン動向調査及び和装関係の参考図書等の情報を基にし、若い人から年配者までといった広範囲に着られる次のデザイン60点をCADシステムを活用して試作した。

- 1) 単純なたて縞散らしの構成に古典調の飛び柄をアレンジしたデザインのもの20点。
- 2) 琳派、慶長模様、山水調といった古典模様を結城紬、石下織物に向くようアレンジしたデザインのもの15点。
- 3) 具象的な形が生きるようユニットの構成を考慮し、新たな線を加え、画面を活性化させたデザインのもの15点。

2.3 結果

試作デザインは、動向調査に基づいた古典模様及び配色を主体に試作、研究を行った結果、デザインの作成については、柄構成に対し地の空間をうまく利用し、模様の展開と亀甲だけでなく多種類の緋を用いて柄の表現を考え、前年と同様に、CADシステムを活用し、デジタルによるパターンの構成と、クラシックディスプレイ上にて餅コピー、緋展開によるパターンの展開を行うことにより、柄の変化プラス従来のものに代る現代の感性を盛り込んだ斬新なデザインを作成することができた。これらのデザインは、すべて線画でディスクへ登録し、再利用がスムーズに行えるようディスクに明示して随時使用可能な状態にした。

2.4 試作デザインの発表

試作したデザイン60点は、63年5月19日(石下)と1年3月23日(結城)の2回、茨城県結城郡織物協同組合員及び結城紬卸商協同組合員を対象にデザイン展を開催し、業界に希望配布し、製品化の指導を行った。

3. 結言

結城紬、石下紬を求める消費者は、渋くて上品なイメージを好み色・柄をすっきり表現することが望まれている。また、高価な製品であることから産地の特徴を備えたデザインが要求されている。

こうした傾向を踏まえ、業界が要望しているCADシステムを活用し、即、利用可能な設計図案としてデザインの創作を行い、結城紬及び石下紬のデザイン向上に役立てた。

なお、産地デザイナーの不足からコンピュータを活用した)虫創性あるデザイン試作の要望が多いため、引き続き実施してゆく考えである。